**２０２３年７月30日(土)　ヴェルウィン（ちくま）会場**

窪田英治

桃食みて酸素飽和度上がりをり 沼田布美

〇 氷穴に束の間の虹立つことも 国見敏子

ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

戸をもるる冷気けむれる氷室かな 村上鞆彦

蛇の殻くるんくるんと恋人来 国見敏子

村上鞆彦

氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治

もてなしの瓜食み虚子の散歩道 松本千代美

〇 闌るとは色を得ること吾亦紅 本井　英

秋を待つ風や高原美術館 新村美那子

旅愁とは薄紅のねこじやらし 吉井素子

鈴木淳子

〇 日盛の一歩踏み出す勇気かな 森　羽久衣

朝の雲夏青空に解けゆく 久保千恵子

切られても切られても生く夏の草 沼田布美

向日葵の首を廻してゐたりけり 沼田布美

ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

森羽久衣

〇 秋を待つ風や高原美術館 新村美那子

栃の実のまだ稚きに歯が立たず 国見敏子

山沿ひのわづかな影や雲の峰 原田淳子

ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

盆近し漬物樽が氷穴に 窪田英治

原田淳子

緑陰に塔(あららぎ)語り来るを待つ 窪田英治

夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

〇 戸をもるる冷気けむれる氷室かな 村上鞆彦

葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

万緑の中に拓けし在の墓 吉井素子

本井　英

氷室より蕾の菊のひとかかへ 村上鞆彦

氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治

一鳥の鳴いて去りたる氷室かな 村上鞆彦

とんぼうの被さつてをり吾亦紅 吉井素子

〇 ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

吉井素子

〇 水引草会へば優しくなつてをり 窪田英治

夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

日盛の小諸行つたり来たりして 森　羽久衣

汗かいてかいて小諸の夏終る 新村美那子

老鶯や川は光を溢れさせ 森　羽久衣

新村美那子

葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

一鳥の鳴いて去りたる氷室かな 村上鞆彦

〇 切られても切られても生く夏の草 沼田布美

夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

ななふしの揺れやむまでを見届けし 村上鞆彦

久保千恵子

葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

夏手套はづして馬を撫でにけり 国見敏子

〇 老鶯や川は光を溢れさせ 森羽久衣

水引草会へば優しくなつてをり 窪田英治

石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

沼田布美

夏川の巨岩しぶきを生み出しぬ 森　羽久衣

〇 石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

マニキュアの十指十色胡瓜揉み 松本千代美

駅前の野外演奏月涼し 新村美那子

松本千代美

日盛の一歩踏み出す勇気かな 森　羽久衣

〇 葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

栃の実のまだ稚きに歯が立たず 国見敏子

石積に影を揺らして夏木立 森　羽久衣

瓜きざむ母の手常に子を愛す 久保千恵子

国見敏子

姥百合の茎のなまめく氷室道 村上鞆彦

葉をよぢり草は炎暑に抗ひぬ 窪田英治

〇 氷室より蕾の菊のひとかかへ 村上鞆彦

柳蘭蕾の塔（あららぎ）を誇るかな 本井　英

氷穴に転げ落ちたる青胡桃 窪田英治